

討議内容

進行は菅座長の司会で行われ、別府海岸の空間構成についての講演やこれまでの検討内容の報告、模型を使った整備計画案の説明のあと、参加者の皆様からいろいろなご意見を頂きました。

主なご意見としては、別府湾における北浜地区の位置づけを考えた整備を行うこと、防災の観点を重視することがあげられました。また、各整備案については、利用の仕方、親水性やヨットハーバー、スパ बीचとの連携を考えることなどのご意見を頂きました。

各検討の観点から

○別府湾における北浜の位置づけ

- (参加者)
- ・別府の海岸は現在ぶつぎりになっている。それぞれで考えているようで、景観的に一体感がない。
 - ・別府湾全体を見て北浜の位置づけを考えるべきである。北浜と上人ヶ浜では利用が異なると思う。
 - ・別府海岸はこれ以上いじる必要はない。
 - ・別府海岸全体をプロムナードでつなぐような考えも持ってほしい。
- (斎藤教授)
- ・別府海岸の各地区における特性を踏まえた整備をするべきである。
- 〔上人ヶ浜〕…美しい自然風景を保全する整備
〔餅ヶ浜〕…昔の砂浜を再生する整備
〔北浜〕…都市の賑わいを活かす整備

○防災について

- (参加者)
- ・終戦直後、市街地まで高潮が入った経験がある。海岸護岸が整備され被害は少なくなったように思う。景観も防災も満たした上で案を考えてほしい。
 - ・北浜は今年の23号台風でも被害を受けた。
 - ・防災を一番考えてほしい。

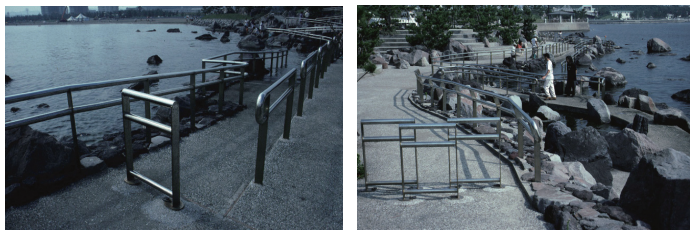


討議の様子

- ・防災の水準は満たしてほしい。また、被害者の意見を聞いてほしい。その上で、景観や親水性を満たすように考えてほしい。
- ・高潮対策が重要だと思う。沖に防波堤を作ることではできないだろうか。そうすれば現状の護岸も低くでき景観も改善されるのではないか。

各整備案について

- (参加者)
- ・今より海岸線を前にだすのは不自然ではないか。
 - ・別府の人口は現在減少しており、今後も減少するだろう。また別府は温泉地である。対してC'案では都市的すぎる気がする。都市ぶった格好をしすぎず、風光明媚な自然や砂浜が必要ではないか。
 - ・地磯があつて、ちょっと降りられるような整備案であるC案が良いのではないか。
 - ・ヨットハーバーとスパ बीचが両脇があるので、親水的な海岸の利用はそこをうまく利用して、北浜旅館街のところはC'案でよい。C案の箱庭的な磯場はなくてもよいと思う。
- (斎藤教授)
- ・磯場をつくって波を弱くすることはうまくいくかもしれない。しかし、人工的に磯場を整備すると管理のために柵が造られてしまう。それが良いのだろうかと疑問を持っている。別府海岸には上人ヶ浜や関の江といういい砂浜があるのだから、あえて人工の磯場は必要ないのではないかと思う。



安全対策のために人工磯場に取り付けられたたくさんの手すり
(神奈川県 金沢文庫の海の公園)



出された意見を整理する菅座長

※別府港海岸の整備に関する情報は下記別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧下さい。
<http://www.beppu-port.go.jp/>

お知らせ

第3回のワークショップは1月下旬に開催を予定しております。詳細は後日ご案内させていただきます。

別府里浜づくり新聞

第2号
平成16年
12月5日

第1回別府港海岸づくりワークショップ(北浜地区)を開催しました



ワークショップの内容

今回は、第1回目ということで「ワークショップの位置づけ・進め方」「検討体制」「検討スケジュール」および「これまでの経緯と今後の検討課題」について、主催者の別府港湾・空港整備事務所から説明を行いました。

続いて、別府港海岸整備検討委員会 幹事会委員の国土交通省国土技術政策研究所上島室長から「日本における海岸空間整備の流れと都市と一体となった海岸空間整備のポイント」と題しての講演と、幹事会座長の東京工業大学斎藤教授に平成14年度の委員会で提案されている整備案を模型で示し、整備計画案の特徴や検討の視点について説明して頂きました。

その後、ワークショップの座長としてNPO別府八湯トラスト代表理事の菅健一氏を選出し、討議に移りました。なお、先に開催した別府港海岸整備検討委員会幹事会の中で、ワークショップの運営は市民の皆様が主体となって実施した方が良い議論が出来るのでは、また、ワークショップと幹事会のつなぎ役も必要ではとの意見を受け、座長推薦となりました。

<第1回別府港海岸づくりワークショップ(北浜地区)会次第>

1. 開会
2. 事務所長挨拶
3. 海岸整備の検討について
 - ・ワークショップの位置づけ、検討体制、スケジュール
 - ・ワークショップの進め方
 - ・座長の選出
4. 座長挨拶
5. 講演：別府海岸の空間構造について
(国土交通省国土技術政策総合研究所 上島室長)
6. これまでの経緯と検討課題の報告
7. 模型説明
(東京工業大学大学院 社会理工学研究科 斎藤教授)
8. 討議
 - ・ワークショップの進め方について
 - ・北浜地区の整備計画について
9. 本日のまとめ
10. 閉会

菅健一座長の紹介



湯トラストとして認定されています。「自分たちの宝ものは自分たちで守っていこう」という姿勢で、別府市内の残したい景観や残すべきものを順次取り上げ、勉強会を開くなどの活動をされています。



別府海岸の空間構造について

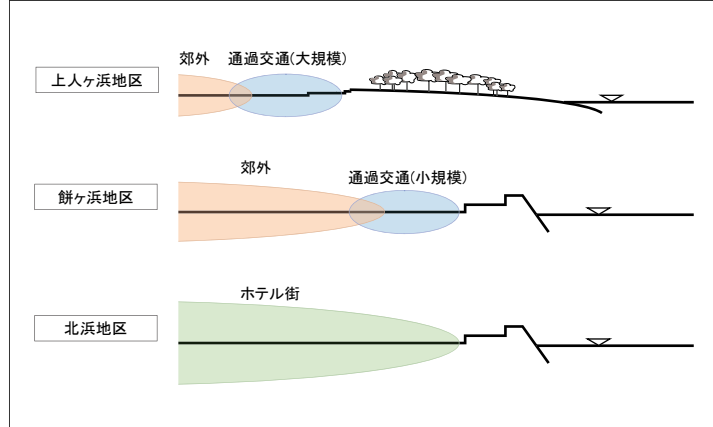
～日本における海岸空間整備の流れと都市と一体となった海岸空間整備のポイント～

国土交通省国土技術政策総合研究所の上島室長から、別府海岸の空間構造についての研究成果が報告されました。

まず、北浜地区がどのような特性をもっているかについてご説明いただきました。

1つ目の特性として、海岸への縦の路地について説明されました。このような縦路地は、生活と海岸の関係が深い地域で発達しているもので、漁村や海浜のリゾート地に特有の空間のかたちということです。水辺と一体となって暮らしを送ってきた町の形態として、北浜地区にもこの縦路地が密集したかたちが残っていることが示されました。

2つ目の特性として、通過交通に着目した海岸と市街地との関係について説明されました。通過交通に着目し別府港海岸にある各海岸を見てみると、郊外と海岸の間に大規模な通過交通がある上人ヶ浜、郊外と海岸の間に小規模な通過交通がある餅ヶ浜、ホテル街と海岸の間に通過交通が無い北浜と分類されます。市街地と海岸が通過交通に分断されない一体性をもつ北浜の海岸空間は非常に稀有な例であることが述べられました。



通過交通に着目した市街地と海岸の関係

北浜地区の海岸整備に関する歴史的背景

浜脇から関の江まで、約12Kmに及ぶ別府市の海岸線には、明治から昭和の初期には天然砂湯がつくられ、夏には海水浴客で賑わう天然の砂浜海岸が多く存在しました。一方で、住宅供給、生活基盤施設整備のため、海面埋立工事が展開されてきました。

北浜地区の埋立は、大正4年に民間の埋立会社により開始されました。海岸の浅瀬部分に約22,000坪の埋立を行い現在の北浜のホテル、旅館街の基礎が築かれました。その後、ヨットハーバーの埋立が大分県と別府市によって行われ、また、北浜地区の環境改善と観光振興の目的で昭和53年度から59年度にかけて、ペ

次に、北浜のように都市と一体となった海岸の整備はどのように行えば良いのかについて、3つのポイントがあげられました。

1つ目は、背後地から海へ行けること見えることというアクセシビリティを確保すること、2つ目は、大きすぎず一定のちょうどいい規模の空間構成をもつこと、3つ目は、背後の町の機能や賑わいなどが海側に滲み出てくることです。

これらの特性を活かし、背後のホテルのみならず、地域の人々や訪れる人々がうまく使えるように、海岸全体で途切れることなく、一体となった整備の実現を目指すことが必要であるとのご意見を頂きました。



上島室長の講演の様子

都市と一体となった海岸整備の3つのポイント

デストリアンデッキと的ヶ浜地区の遊歩道が完成しました。このころ、的ヶ浜海岸にはスパビーチ（人工砂浜）も完成しました。



北浜旅館街南側の天然砂湯

模型による北浜整備計画案の説明

整備計画4案の特徴を齋藤教授に模型を使って説明していただきました。

会場には、北浜旅館街の現況、海岸前面に砂浜をつくるB案、緑地とプロムナードをつくるC'案の全体模型と、B案、C'案の詳細断面の模型が用意されました。説明の際は、参加者の皆さんも模型の周りに集まり、立体的に表現された模型で確認しながら現況と合わせて計画案の比較、検討を行いました。

○整備案の検討の視点と考え方について

北浜地区の整備案の検討にあたり、3つの視点が示され、それに基づいて各案の特徴などについての説明がなされました。

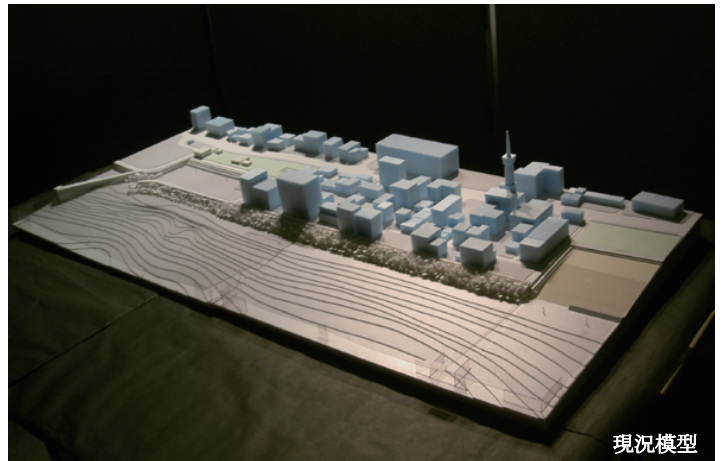
1つ目は、海側の利用という視点です。北浜地区は背後に旅館街が迫っているという特徴をもち、北側にスパビーチがあり、南側にヨットハーバーがあることを考えると、必ずしも旅館街前面で水に触れるという親水性が必要なのかということを述べられました。

2つ目は、防護のために海と町の間に立ち上がる壁をどうするかという視点です。海と町の一体的な整備を実現するために、現在ペDESTリアンデッキとなって立ち上がっている壁の高さをうまく処理しなければならないことを述べられました。

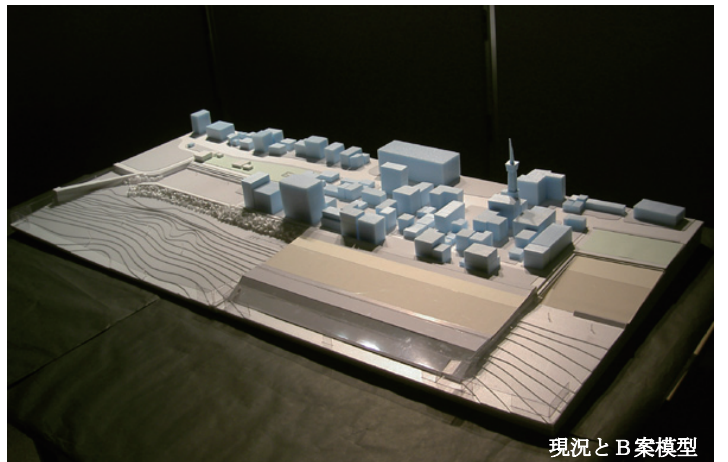
3つ目は、海岸の適正な改変規模という視点です。旅館街の埋立て以前に砂浜があったからといって、沖合いが急深な場所で海底の大規模な改変が必要なのかということを述べられました。



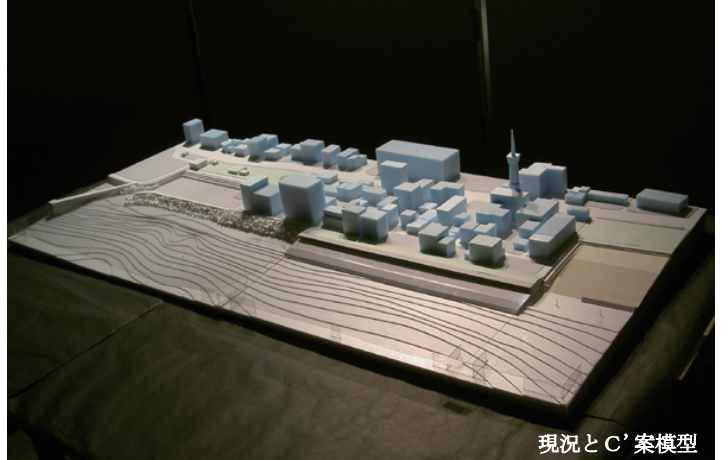
模型による計画案の説明の様子



現況模型



現況とB案模型



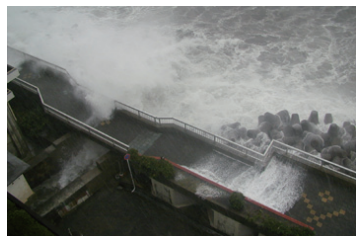
現況とC'案模型

被害の概要

今年10月20日に来襲した台風23号は、別府港海岸の各地で越波を発生させ、北浜地区の旅館街でも被害を受けました。

この台風による北浜地区の被害の状況は、遊歩道のタイルや花壇のタイルが一部剥がれ、照明灯が曲がるなどと報告されています。また、近接するホテルのガラスが割れたり、駐車場舗装が剥がれるなどの被害もありました。

このような状況において、越波や高波などによる被害を防ぐ十分な機能を持った海岸保全施設の整備が重要です。



台風23号による北浜旅館街前の越波の様子

台風23号による北浜旅館街の被害の様子

